

令和3年9月（2021年）No.669

## OMC 映像フェスティバル開催 今後の発表会運営の転機となるか

会長 合原一夫

令和3年10月3日（日）、今年も無事 OMC 映像フェスティバル開催へと漕ぎ着けました。コロナ禍のもと、例年以上に気を遣う運営が強いられますが、これも会員諸君のご協力のもと、無事乗り切れるものと信じております。定員が100名に抑えられている中で、実際にはどれほどの方が来場されるか懸念材料はありますが、弾力的運用で乗り切れるかと考えています。

今年のプログラム編成には苦勞しました。昨年まで毎年出品して頂いていた会員さんが4名ほど退会や死去等で出品が無くなったことです。会員の高齢化が進むと毎年この様な問題が発生してくるでしょう。今年の作品候補を当初集計したら1時に始めると3時半には終わってしまい、数万円の赤字になるという予測でした。これは上映開始を30分遅らせて1時半にすることで何とか解決しました。収支の面では、出品者が減った分、収入も減り赤字が増えるので、プログラムをハガキ形式にしたりして経費節減に努めました。

会員諸氏の作品の長さが8～10分位の短編が多く、ドキュメンタリーに見られるような15～20分ものの作品が少なくなってきたことも、映像発表会の今後の課題です。会員数が多く出品作も多かった時代はそれで良かったのですが、会員数が減り出品作も少なくなれば、短編だけでは発表会の時間が少なすぎます。又、大幅な赤字となってしまいます。年1本でもいいから内容のある12～15分程度の作品を目指す人が何人か出てくれば、発表会の運営も楽になるのですが。皆さんこの問題も考えて下さい。



### 9月例会のお知らせ

- 第二例会；9月16日（第3木曜日）13時より 難波市民学習センター
- 通常例会；9月25日（第4土曜日）18時より、どうぞお越しください

# OMC 映像フェスティバル プログラム（上映順）

=休憩=

- |                    |     |       |                      |      |      |
|--------------------|-----|-------|----------------------|------|------|
| 1, 都会のメルヘン         | 8分  | 柴辻英一  | 8, 楠の巨木は守り神          | 10分  | 紙本 勝 |
| 2, 縁日の須磨寺          | 6分  | 宮崎紀代子 | 9, やなせ森林鉄道           | 9分   | 江村一郎 |
| 3, 千の窓の町           | 8分  | 山本正夢  | 10, 我が家の改築「窓」2020年 夏 |      |      |
| 4, 2021年 春・狭山池を訪れて |     |       | 11分                  | 上総秀隆 |      |
|                    | 8分  | 中川良三  | 11, 高山右近の郷 棚田風景      |      |      |
| 5, 雅楽に生きる          | 9分  | 中村幸子  | 13分                  | 進藤信男 |      |
| 6, 三栖の炬火祭          | 11分 | 高瀬辰雄  | 12, おんな港・室津          | 10分  | 岡本至弘 |
| 7, 新たな出発・酒店三代目     |     |       | 13, 素顔のミャンマー         | 13分  | 合原一夫 |
|                    | 7分  | 河口禮志  | 14, 曳山の聲が響く          | 9分   | 関 剛  |

以上

## 大阪アマチュア映像祭

大阪市立中央図書館との共催による大阪アマチュア映像祭は、11月14日（日）と決定されました。今年もコロナ禍の為、定員が大幅に削減され、前回90名だったところ、今回は80名にと、更に厳しい制約を受けました。そこで今回も事前申し込み制となります。事前申し込み制運用には時間と経費が嵩むことから、案内状の配布数を大幅に減らす事しております。本来ならば一人でも多くの人に来てほしいところですが・・・。

## 8月例会レポート

8月例会は第4土曜日28日、難波市民学習センターにて開催。この日は、大阪府に3回目のコロナ禍による緊急事態宣言が発出されていた。極暑の連続、大雨の連続、台風の連続と今夏は異常気象の連続で被害に苦しめられる地域ではまさに苦労の連続でした。お見舞い申し上げます。そんな環境下で、例会参加もメンバーが一定してきている傾向は心配ですが、ワクチン接種も進んできたお陰で早く受けることができる年代層の会員たちには嬉しいことに違いない。

この日は9名の出席者数に過ぎなかったが、全員が作品出品という、まさに“映像好き人間”の集まりとなった。

- **運営担当:**司会・合原、書記・進藤、メモリー記録・江村、映写・岡本、受付/照明・宮崎、Youtube 関係・進藤。（先月にならない会長に司会をお願いした）
- **出席者** :宮崎、紙本、山本、江村、高瀬、岡本、関、合原、進藤 以上9名

上映作品（書記は進藤氏）

### 1, 秋吉台の山焼き

宮崎 紀代子

6分59秒

<作者コメント> 1999年2月山口県へ帰省した折にたまたま秋吉台の山焼きに出会った。以後この撮影テープは仕舞い込んだままになったが、この度編集することができた。山焼きと共に姉妹と過ごした楽しい思い出が蘇った。

<書記コメント> 作品で紹介されているように、「農作業の一環として行われていた秋吉台の山焼き。秋吉台は秋芳洞とともに、1,138ヘクタールに及ぶ日本最大規模のカルスト台地。現在では、草原の景観維持、害虫駆除、林野火災の防止、生態系の保護の目的にしている」とのことです。毎年早春に行われる山焼きは、奈良の若草山など、限られた地域でのみ継承されています。ここでは、山焼きの作業者は地元の住民約1000人で、高齢化と後継者問題により、山焼きの継続が危惧されるようになってきているともいわれます。故郷の思い出としての風物詩。これからも大切に継承されていくことを願っています。



### 2, 京の里の巨木にいわれあり

紙本 勝

9分11秒

<作者コメント> 今までに巡った巨木は、何れも何百年という歳月を生きているが、植えられた伝承があっっておもしろい。この作品にも小野小町が播いたといういわれがある。

<書記コメント> 深草少将と小野小町の悲恋もの話の語り、宇治茶の産地和束町の8本の大木・祇園杉と花餅、海住山寺のヤマモモの大木。いずれも心に残る「いわれ・言い伝え」です。巨木巡りも、こんな話を辿ることができると楽しい取材になります。



### 3, 崇武古城(すいぶ こじょう)

山本 正夢

7分30秒

<作者コメント> 中国福建省を旅した時のビデオです。観光名所が多く編集時はうまくまとまりませんでした。

<書記コメント> 日本の中華街でもよく知られている「関帝廟」は、三国志に出てくる武将「関羽」を祀っている。劉備に絶対的な忠誠を尽くした関羽の生涯は、その後の歴代王朝の為政者だけでなく、民間伝承も多く庶民の間でも高い人気があったのだといわれる。財務や会計の知識も豊富だったとされ、その忠義心と誠実さは商売にも通じるため、商売繁盛や富の繁栄の象徴として神格化され、時代を超えて中華街の商人たちに篤く信仰されているのだといわれる。その昔、福建省あたりはアラビアやインドからの物資の流通が多く、倭寇に備えた城郭と聞くと、遠く日本の室町時代頃から織田信長が現れ



る時代までの間、物流に絡んで東南アジアとりわけ中国、朝鮮、日本がとも深くかかわりあったと学んだような記憶が思い出されました。山本さんの作品には、こんな背景が潜んでいるのだろう。

#### 4、夏の元気をくれる花ひまわり

進藤 信男

7分55秒

<作者コメント> 真夏の太陽にも負けずに、丸くきれいに咲くひまわり。この夏の極暑に負けないように水遣りに通った我が家の狭い菜園。その片隅に大輪の花をつけてくれ

た。一面のお花畑撮影を描いていたが、折からの外出自粛規制のため近場の撮影となった。巣籠りを要請された期間が長くなり、子供たちならず私たちも外の空気はおいしい。

<書記コメント> ヒマワリを漢字で書くと「向日葵」となる。朝に日が昇ると東を向き。昼に南中すると南の方向、夕方には西の方向を向くものと思っていたが、開花すると全て東の方向で固まる。また、開花すると一週間の花、向日葵園の人から花の向きと共にこんな説明を伺った。



#### 5、蹴上インクライン

江村 一郎

7分50秒

<作者コメント> 京都地下鉄東西線「蹴上駅」を出たところにインクライン(傾斜鉄道)、その上が明治23年に完成して、京都の近代化に大きく貢献した琵琶湖疎水がある。疎水では67年ぶりに運航が復活している。インクラインを中心に近くの南禅寺を含めた秋模様。

<書記コメント> 月例会作品として、今年は琵琶湖疎水、インクラインを描いた作品がつづく。この作品は、季節を

秋にされているが、作者が得意とするタッチで撮られたシーンそれぞれは多彩でこのテーマだけにしてしまうのがもったいない気がする。続いて、次のテーマでの作品を期待してしまう。



#### 6、京の六地藏巡り

高瀬 辰雄

11分40秒

<作者コメント> 8月23、24日に行われる六地藏巡りは800年にわたり続く京都の伝統行事です。小野篁(おののたかむら)が作った6体の地藏菩薩を平清盛が街道の入り口に安置し、旅人や庶民の安全や無病息災を祈願した。この6つのお地藏さんを拝順する行事で、今回、電車を使って回りましたが、いずれも街道の入り口という市内の端にあり、限られた日数内に6カ所を撮影して回るのはかなりハードでした。

<書記コメント> 六カ寺を回ると35Kmあるという。昔は、これを1日で巡ったというから大変な速足



だ。京都の街道からの入り口で邪悪なものが入らないように、また庶民の安全と無病息災を祈った。都がおかれて長い期間があった京都には、安泰を願う仕掛が幾重にもあったのに違いない。多くの事が現在に継承されているのだから、私たちには題材が沢山ありそうだ。六地蔵それぞれの特徴などが説明されていると、より関心呼び込みに違いないとの話があった。作者独特の落ち着いたタッチでまとめられているのが好感を与えていると思われる。

## 7. お笑い刃傷 松の廊下

岡本 至弘

14分40秒

<作者コメント> ある団体「いっぺん笑おう会」様に依頼されて撮影したものです。コロナ禍のため、無観客で、スタッフのみの舞台撮影です。映像作品ではありませんが、お遊びで編集してみました。楽しんでご覧いただければと思います。

<書記コメント> 依頼された撮影だとのことですが、無観客ながらコミカルで楽しい作品。ただ、台詞展開

と舞台上の動作がわかりにくいのが惜しい。動作の何か所で、お笑いを誘うところがあるのだが、観客の応援がないので出演者の挙動・表現だけ見せられる。ところどころ、テロップで補足することがあっても良かったのではないのでしょうか。



## 8. 古道幻影

関 剛

13分00秒

<作者コメント> 1999年の南紀熊野博覧会に合わせて岡本さんが企画した撮影会の作品。OMCとして初めてシナリオによるミニドラマ。このとき、私は演出に専念していたので私自身は撮影をしていない。後日、一部会員のオリジナルテープを預かり編集したもので、私の意図した映像とは、少し違った内容になってしまった。

<書記コメント> かつての撮影会作品で、熊野詣をテーマにした、関さんオリジナルの心象作品。はじめに、「和泉式部が熊野権現を目前にして、我が身の不浄を悟り参詣を断念した。現代によみがえり、古道散策に訪れた若い女性に身代わりを託す創作劇」とのテロップが流される。そして、「晴れせらぬ 身の浮雲の棚ひきて 月のさはりとなるぞ悲しき」という和泉式部の歌を書いた色紙。熊野街道筋にあり参詣する人が身を清めたとされている「水垢離場」など、若い女性の心象として描いていく。熊野権現の色紙「もろともに 塵にまじわる神なれば 月のさはりも 何かくるしき」でしめくくられている。さて、身代わりを託されたとき、私たちはどう行動するのだろうか。昨年は、コロナ禍で中止になったが「あげいん熊野詣」として毎年10月末には、古代衣装を着て御幸行列が開催されています。こんなことを考えながら、はまり込んで行く作品でした。



## 9、幡祭りの頃

合原 一夫

9分08分

<作者コメント> 福島県東和町には、古くから伝わる「祭り」がある。日本三大旗祭りの一つに数えられる。この東和町の「幡祭り」は、色とりどりの布をぶら下げた「のぼり旗」を、各町内より持ち寄り華麗な旗行列が始まる。

この作品は、東北大震災の前に撮影したものだが、大震災後も伝統行事が守り継がれているのか気にかかる。(平成11年12月撮影)

<書記コメント> 日本三大旗祭りの一つとのことでしたので、現地二本松市へ紹介してみました。白旗を先達、赤、青、黄、緑と、色とりどりの五反旗が勢揃いし、法螺貝を吹き鳴らしつつ木幡(こはた)山の尾根を登っていく。陸奥征伐に出向いた源頼義とその子八幡太郎義家(源義家)の軍勢が、この旗の群れに助けられたという「云われ」を持つ。九百余年の歴史と伝統をもち現在に伝えられているお祭り。令和2年12月には、規模を小さくして神社関係者のみで行われ、一般公開はされなかった。

令和3年は、例年通り開催を計画しているとのこと。現地に伺うと、ここにもコロナ禍は及んでいるのです。コロナ禍が収まり、こんな歴史を持つ行事はこれからも長く伝承されていくことを願っています。



### ■ 編集後記

今月の二つの作品「古道幻影」と「旗祭りの頃」は、随分前の撮影作品でしたが、いずれも歴史を語るもので現在に伝承されている行事でした。

さて、はじめに記載しましたように今回のコロナワクチン接種では、高齢者優先で対処されたので私達はその恩恵を受けました。一方、自覚し難いといわれる聴力の変化があります。私も例外ではありませんので、通っている耳鼻科の先生にも伺いながらその特徴を簡記してみました。

衰えは、①30歳代から始まっている。まず、②高い周波数から聞こえにくくなる。③子音の聞き違い、聞き分けができないことが多くなる、高い周波数で構成されるカ行、サ行、タ行。④音が響く会議室や大人数での会話、低音でリバーブが効いた音など。

いずれ補聴器の助けを得る必要がありますが、大音響の中に長時間いることを避けるのもこの進行を遅らせる方法だと教えられました。

身近な心がけとして、例会で使用しているスピーカーの音質・音量調整、低音部(BASS)を弱く、高音部(TREBLE)を強くすること、むやみに音量ボリュームだけを上げないことが随分と効果があります。知らず知らずの間に進んでいるこんな事態も、ビデオ例会を気持ち良く長く続ける具体策になるのでしょうか。